

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00051

研究課題名（和文）ニーチェにおける自然主義と構成主義の両立可能性に関する研究 ニヒリズムをめぐって

研究課題名（英文）A Study on the Compatibility of Naturalism and Constructivism in Nietzsche: On Nihilism

研究代表者

竹内 綱史 (Takeuchi, Tsunafumi)

龍谷大学・経営学部・准教授

研究者番号：40547014

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ニーチェ哲学における自然主義と構成主義の両立可能性という問題を考察することによって、ニヒリズムという現代の宗教哲学的課題、すなわち人生の意味への問いに対し、暴力的な他者排除に陥ることなく答えるための視座を獲得することを目的としていた。

研究の結果、ニーチェの採用する自然主義が現代哲学で主流の物理主義ではなく生物主義であり、しかもそれも一つの世界解釈でしかないことを認めただけの立場であることが明らかになった。そしてその世界解釈を実際に生きて見せる「率先垂範の倫理」（規範の源泉を個々人の「生きざま」に置く倫理）によって、暴力的な普遍妥当性を要求しないことがニーチェの立場であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ニーチェ哲学を駆動しているのは次のようなアンチノミーである。一方で、この世界におけるあらゆる価値が人間的に構成されたものであるならば、人生を懸けて追い求めるべきものは存在せず、この世界での生に意味が見出せなくなる。しかし他方、この世界に客観的価値が存在するならば、それを共有し得ない者を排除する暴力的な社会が生じてしまう。

この問題に対して、本研究が見いだしたニーチェの「率先垂範の倫理」とは、各人の生きざまが後続の者たちに意味ある生き方の例として示される、という考え方であり、さまざまな生き方の平和的共存が可能な考え方の一つであることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the compatibility of naturalism and constructivism in Nietzsche's philosophy in order to gain a perspective from which to answer the contemporary philosophical-religious issue of nihilism, or the question of the meaning of life, without falling into violent exclusion of the other.

As a result of the research, it became clear that Nietzsche's naturalism is not physicalism, which is the mainstream of contemporary philosophy, but biologicalism, and that it is a position based on the recognition that it is only one interpretation of the world. Nietzsche's position was to avoid the demand for violent universal validity through an "ethic of exemplarity" (an ethic that places the source of norms in the "way of life" of each individual), in which that interpretation of the world is actually lived out and shown.

研究分野：宗教哲学

キーワード：ニーチェ ニヒリズム 人生の意味 自然主義 構成主義 ショーペンハウアー

## 1. 研究開始当初の背景

ニーチェ哲学を駆動しているのは次のようなアンチノミーである。一方で、この世界におけるあらゆる価値が人間的に構成されたものであるならば、人生を懸けて追い求めるべきものは存在せず、この世界での生に意味が見出せなくなる。しかし他方、この世界に客観的価値が存在するならば、それを共有し得ない者を排除する暴力的な社会が生じてしまう。ニーチェの言葉で言い換えるならば、神は死んだのであっていかなる超越的な価値も存在せず、ニヒリズムが到来する。だが、神ないし超越的価値が存在するならば、別の価値体系の中で「強者」とされるような者が「弱者」によって圧殺されることになり、人類の可能性が縮小することになる。

東日本大震災後の日本社会においては人生の意味という問題への関心が広く見られ、専門的にも倫理学や宗教哲学の領域で多くの関心を集めている。そして人生の意味への問いとそれが孕む暴力性という問題は、世界的にも、昨今の宗教問題の大きさからしても分かるように、現代社会の焦眉の問題であり、当然それは現代哲学の喫緊の課題でもある。だが、ポストモダニズムが指し示すような社会構築主義的発想は、人々から生きる指針を奪いかねない。ところが他方、ある特定の善構想によって世界を裁断することは社会的暴力の温床である。まさしくこの問題が、ニーチェ解釈上では、かつて一種の社会ダーウィニズム(優勝劣敗の歴史観)として危険視されていた彼の自然主義的言辞をいかに考えるかという問題と、直結しているのである。ニーチェは一方でポストモダニズムの祖でありながら、他方では危険な全体主義の思想的源流と看做されている。すなわち、自然主義と構成主義あるいは実在論と反実在論という相反する立場が、ニーチェ哲学解釈という文脈において競合しているのである。本研究は、ニヒリズムの問題すなわち人生の意味という問題に注目することで、この論争に決着をつけることを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究は、ニーチェ哲学における自然主義と構成主義の両立可能性という問題を考察することによって、実存主義・ポストモダニズム・政治理論・分析哲学・文献研究などに分化しているニーチェ哲学研究の統一を図り、ひいては、現代哲学のありうべき方向性を探ること、とりわけニヒリズムという現代の宗教哲学的課題、すなわち人生の意味への問いに対し、暴力的な他者排除に陥ることなく答えるための視座を獲得することを目的としていた。自然主義と構成主義の葛藤という現代哲学的観点とニーチェのニヒリズム論を結びつけ、さらにそのニヒリズム論をより一般的な人生の意味論と繋げて考察することが本研究の特色であり、世界における最先端の研究への寄与もさることながら、哲学研究のより実践的な意義を探ることも目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は文献的な研究であるが、三つの文脈を組み合わせることを方法とした。(1)ニーチェ自身のテキストの解釈、(2)哲学史の再考、(3)現代哲学の最前線の課題、の三つである。以上により、各問題系に独自の寄与をすると同時に、それぞれのトピックがばらばらに扱われがちな現代哲学の状況に対し、統一的な視点を提供することになる。

- (1) ニーチェ自身のテキストの解釈： 主に以下の三点が中心となった。
  - ニヒリズム(人生の意味への問い)という問題設定を特に前期の諸著作から跡づける。
  - 中期の諸著作における自然主義への接近を分析する。
  - 後期の諸著作における構成主義的主張と自然主義の関係を明らかにする。
- (2) 哲学史の再考： ニーチェの哲学史的位置づけを以下の三点に関して再考する。
  - カント主義とダーウィニズムの総合という文脈を同時代的にも跡づける。
  - 自由論や心身問題というテーマへのニーチェの寄与を明らかにする。
  - 生の哲学やプラグマティズムというニーチェに近い思想潮流との関係を明確にする。
- (3) 現代哲学の最前線の課題： 以下の三つのテーマについて、独自の視点を見いだす。
  - 自然主義と構成主義の両立可能性を見出す。
  - 人生の意味という問題の適切な位置づけを示し、暴力的な他者排除に陥ることなくその問いに応える道を示す。
  - 心身問題と自由論に新たな見通しをつける。

## 4. 研究成果

もともと本研究は 2018 年度から 2020 年度の三年間の予定だったが、コロナ禍のため一年延

長して2021年度までの四年間となった。前半の二年はほぼ予定通り進んだものの、後半の二年はコロナ禍でさまざまな予定変更を余儀なくされた。特に国際学会への参加や国際シンポジウムの開催は断念せざるを得なかった。それでも研究目的はある程度は達成できたと言えるだろう。以下、年度ごとの成果をまとめる。

#### 【2018年度】

ニーチェのニヒリズム論を、客観的に実在する価値を求めてしまう人間の傾向（価値に関する客観主義）の問題としてとらえ、その克服の方途について検討。「客観的に実在する価値」を神に代表されるような「超越者」ととらえ、伝統的な超越の問題と接続し、ニーチェの「ニヒリズムの克服」に向けた発想を「超越者なき自己超越」として捉え直した。ショーペンハウアーの同情＝共苦（Mitleid）倫理学に対するニーチェの批判の検討。「共感」がもてはやされる現代において再評価の進むショーペンハウアーの同情＝共苦倫理学に対して、ニーチェがどのような批判を行ったのかの論点を整理した。前期著作におけるニーチェの哲学的方法論の萌芽の検討。前期著作『生に対する歴史の利と害について』の歴史学批判がどのような射程を持つかを再検討した。現在世界の（文献研究系）ニーチェ研究をリードするアンドレアス・ゾンマー教授（フライブルク大学）を招いて講演会を開催し、意見交換を行った。世界哲学会や国際ニーチェ学会で発表の機会を得、世界中の研究者と意見交換ができたことも収穫である。関西倫理学会と日本ヤスパース協会ではシンポジストとして登壇し、隣接分野の研究者たちとも様々な意見交換ができた。

#### 【2019年度】

2018度に行ったショーペンハウアーの同情＝共苦（Mitleid）倫理学に対するニーチェの批判の検討をさらに進めて、ショーペンハウアーにおける倫理と宗教の関係とニーチェのニヒリズム論の比較検討を行った。ニーチェが「ニヒリズムの実践」と呼んだ同情＝共苦倫理学について、ニーチェとは違う解釈の可能性について考察した。ニーチェのニヒリズム論の現代的意義を探るため、現代日本における「無宗教」のニヒリズム的側面について考察した。価値に関する反実在論と客観主義の組み合わせがニヒリズムを生むというニーチェの洞察を用いて、現代日本の宗教性について考察した。ニーチェのニヒリズム論に関していま世界で最も評価されているバーナード・レジスターの著作を翻訳した。ニヒリズム研究を大きく進展させた著作の翻訳であり、翻訳作業を通じて、私自身の解釈も深めることができた。ドイツのショーペンハウアー協会での発表とイタリアの現代ニヒリズム研究センターでの発表は大変好評で、さまざまな意見を聞くことができた。特に現代ニヒリズム研究センター（International Center for Studies on Contemporary Nihilism (CeNic)）での共同研究は本研究にとっての意義がとても大きい。

#### 【2020年度】

2019年度に行った同情＝共苦（Mitleid）倫理学をめぐるショーペンハウアーとニーチェの比較検討についての口頭発表を論文化した（ドイツ語）。ニーチェが「ニヒリズムの実践」と呼んだ同情＝共苦倫理学について、ニーチェとは違う解釈の可能性についてを深化させた。をうけて、両哲学から現代の「人生の意味」論への接続を試み、また、ショーペンハウアーのペシミズムの現代版である「反出生主義」に対してニーチェ哲学からいかに反論できるか考察した。ショーペンハウアーのペシミズムを批判することで成立したニーチェのニヒリズム克服をめぐる思索が、現代においても有効であることを示した。コロナ禍のため、研究に使える時間がかなり制限されてしまい、また、予定されていた国際学会への参加や国際シンポジウムの開催はできなかった。そのため当初予定では当年度が本研究の最終年度であったが、一年延長することとなった。

#### 【2021年度】

2020年度に行った現代の「人生の意味」論および「反出生主義」に関するショーペンハウアーとニーチェの対比についての口頭発表を論文にした。ショーペンハウアーのペシミズムを批判することで成立したニーチェのニヒリズム克服をめぐる思索が、現代においても有効であることを示した。ニーチェ哲学の自然主義的解釈を彼の考える「率先垂範の倫理」（規範の源泉を個々人の「生きざま」に置く倫理）という観点から検討した。ニーチェの採用する「自然主義」が現代哲学で主流の「物理主義」ではなく「生物主義」であり、しかもそれも一つの「世界解釈」でしかないことを認めたいうえでの立場であることを明らかにした。2019年に行ったショーペンハウアー哲学における倫理と宗教の関係についての口頭発表を論文にした（ドイツ語）。ニーチェ哲学に枠組みを提供しているショーペンハウアー哲学の急所である「意志の否定」論についての新たな解釈の可能性を示した。

引き続きコロナ禍のため、国際学会への参加や国際シンポジウムの開催はできなかったが、特に は本研究の一つの結論であり、それをまとめることができたのは大きな成果である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 竹内 綱史	4. 巻 57
2. 論文標題 意味ある人生とは必然的に不道德なのではないか？：ニーチェとショーペンハウアーから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 哲学論文集	6. 最初と最後の頁 77～103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4495892	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 竹内 綱史	4. 巻 45
2. 論文標題 生のトータルな肯定は可能か ショーペンハウアーとニーチェから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 233-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 竹内 綱史、Takeuchi Tsunafumi、タケウチ ツナフミ	4. 巻 52
2. 論文標題 ニーチェにおける自然主義と率先垂範の倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メタフュシカ	6. 最初と最後の頁 23～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/85560	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 40-1
2. 論文標題 Think Rationally but Feel Spiritually: A Nihilistic Dualism in Modern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Teoria. Rivista di filosofia	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4454/teoria.v40i1.94	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 101
2. 論文標題 Nietzsche's Critique of Schopenhauer's Morality of Compassion	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schopenhauer-Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 227-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内 綱史	4. 巻 49
2. 論文標題 超越者なき自己超越 ニーチェにおける超越と倫理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学研究	6. 最初と最後の頁 20 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24593/rinrigakukenkkyu.49.0_20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 34
2. 論文標題 ニーチェの同情 = 共苦批判について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷哲学論集	6. 最初と最後の頁 61 ~ 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 23
2. 論文標題 「神は死んだ」のか? ニーチェにおける宗教と科学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 50-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 意味ある人生とは必然的に不道德なのではないか？ ニーチェとショーペンハウアーから
3. 学会等名 九州大学哲学会令和2年度大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 生のトータルな肯定は可能か ショーペンハウアーとニーチェから
3. 学会等名 親鸞仏教センター第2回「現代と親鸞」公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ニーチェのMitleid批判と「悪」の問題
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第31回ニーチェ・セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ショーペンハウアーの倫理学と救済論
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsunafumi Takeuchi
2. 発表標題 Schopenhauer als Religionsphilosoph. Ueber den "Uebergang" vom Mitleid zur Verneinung des Willens
3. 学会等名 Schopenhauer-Gesellschaft (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsunafumi Takeuchi
2. 発表標題 Think Rationally but Feel Spiritually: A Nihilistic Dualism in Modern Japan
3. 学会等名 Congress of the International Center of Studies on Contemporary Nihilism (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ワークショップ「永遠回帰」提題
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第32回ニーチェ・セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Nietzsche's Critique of Schopenhauer's Morality of Compassion
3. 学会等名 The XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Die "Kritische Historie" in der Historienschrift als die erste Methodologie der Philosophie Nietzsches
3. 学会等名 Nietzsche-Gesellschaft (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 超越者なき自己超越 ニーチェにおける超越と倫理
3. 学会等名 関西倫理学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 現代ニーチェ研究から見たヤスパースのニーチェ解釈
3. 学会等名 日本ヤスパース協会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 竹内綱史ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Walter de Gruyter	5. 総ページ数 450
3. 書名 European/supra-European: cultural encounters in Nietzsche's philosophy	

1. 著者名 竹内綱史ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 世界哲学史 7	

1. 著者名 竹内綱史ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Walter de Gruyter	5. 総ページ数 500
3. 書名 Nietzsche und die Reformation	

1. 著者名 バーナード・レジンスター、岡村 俊史、竹内 綱史、新名 隆志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 558
3. 書名 生の肯定	

1. 著者名 Helmut Heit und Andreas Urs Sommer (Hg.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 500
3. 書名 Nietzsche und die Reformation	

1. 著者名 Marco Brusotti, Michael Mcneal, Corinna Schubert and Herman Siemens (ed.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 450
3. 書名 European/ Supra-european: Cultural Encounters in Nietzsche's Philosophy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

CeNic <a href="http://www.nihilismocontemporaneo.org/en/home-2/">http://www.nihilismocontemporaneo.org/en/home-2/</a>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Andreas Urs Sommer 教授 講演会	開催年 2018年～2018年
-------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	CeNic			
コロンビア	CeNic			
ドイツ	CeNic			
スペイン	CeNic			
メキシコ	CeNic			